

2025(令和7年)年5月1日(木)

会場：長野市生涯学習センター 大会議室1

2025(令和7)年度(公社)砂防学会信越支部
総会・講演会 次 第

総会 14:30～

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

2024(令和6)年度 事業報告(案)	議案1
2024(令和6)年度 会計報告(案)	議案2
2025(令和7)年度 事業計画(案)	議案3
2025(令和7)年度 予算(案)	議案4
役員の推薦(案)	議案5

4 報 告

2025(令和7年)(公社)砂防学会研究発表会「長野大会」について

>>>>>休憩

講演会 15:30～

演 題 長野県の砂防と土砂災害～「これまで」と「これから」

演 者 長野県建設部砂防課 参事兼砂防課長 森田 耕司氏

(公社) 砂防学会信越支部

2025(令和7年)年5月1日(木)、令和7年度総会

2024(令和6)年度事業報告(案)

1 支部総会・講演会の開催

2024年5月2日(木)、長野市生涯学習センター 大会議室1において、令和6年度砂防学会信越支部 総会・講演会を開催した。総会は14時からオンラインを含め委任状と合わせて88名(支部会員115名中)の出席で実施された。堤信越支部長の挨拶ののち、「令和5年度事業報告(案)」、「令和6年度事業計画(案)」、「運営規程の改定(顧問及び事務局の設置)(案)」、「役員の推薦(案)」について審議され、いずれの議案も満場異議なく、原案どおり承認された。また、2025(令和7)年度(公社)砂防学会研究発表会について、長野市で開催され、信越支部主体で運営する旨の報告があった。

総会に続き、15時から講演会を開催した。講演会は「令和6年能登半島地震災害～大規模土砂災害時における砂防学会の役割と期待されること」を演題とし、パネルディスカッション形式で開催された。パネラーとして大野宏之(一社)全国治水砂防協会理事長、(公社)砂防学会会長、古谷元 富山県立大学工学部教授、信越副支部長、権田豊 新潟大学農学部教授、信越副支部長、柏原佳明 アジア航測株式会社国土保全コンサルタント事業部、砂防学会理事の4名の方、ならびにコーディネーターとして堤大三 信州大学農学部教授、信越支部長に登壇いただいた。内容としては信越地域内で発生した令和6年能登半島地震災害に伴う土砂災害の実態と特徴について、古谷副支部長から概要ならびに現象別、箇所別に緊急調査の報告を踏まえ詳細に説明いただき、2月に実施された砂防学会・地すべり学会合同での先遣隊調査結果に基づく緊急提言(3月6日発表)に込められた考えについて大野学会長に説明いただいた。今後学会として取り組むべき課題として、地震に伴い発生した崩壊土砂の流動化現象のメカニズムの解明や地震による土砂災害のリスク表示の検討などが挙げられた。また、現地調査に先立って実施された斜面崩壊の地形解析結果について柏原理事から説明いただいた。既存の地形・地質データならびに活断層の位置に加え、発災後直ちに公開されたK-NETによる地震加速度や国土地理院による崩壊分布データを整理、分析した結果、地質の影響、傾斜、傾斜方向、活断層からの距離と崩壊面積率の間に相関がある可能性が得られたことなどが今後の課題と共に示された。パネラー全員による議論では、これまでの地震災害後の解析結果においても地域ごとの違いがあり、今回の結果を他の地域にあてはめることの難しさへの指摘とともに今後の研究の必要性が述べられる一方、突発的に発生する地震災害に対して、地形・地質等の情報を普段から蓄積しておくことが迅速な解析につながるとの指摘もあった。会場からは地震に伴う土砂災害に関する研究を継続的に行っていくことの重要性に鑑み、学会としての取り組みを体制も含めて検討すべきとの指摘をいただくなど、活発な質疑応答が行われた。

2 砂防・急傾斜管理技術者一次試験（長野会場）

2024年6月22日（土）、砂防・急傾斜管理技術者試験（一次試験）を長野会場（長野市生涯学習センター3階 第5学習室）において実施した。当日は申し込みのあった1名が受験した。試験の実施には堤支部長・山田委員・藤本事務局員があたった。

3 現地見学会・検討会

2024年10月4日（金）、長野県の飯山市・栄村において現地見学会・検討会を開催した。飯山市から栄村にかけての千曲川左岸山地では本年、令和6年4月に発生した飯山市野々海川上流の崩壊、平成23年3月12日の長野・新潟県境地震に起因した栄村中条川での大規模崩壊等、数年に一度大規模な崩壊や土石流が発生している。本年1月に発生した地震及び9月20日からの大雨により能登半島では大規模な土砂災害が多数発生し、地震と土砂災害の関連が課題となっている状況も踏まえ、本地域での土砂災害現場を視察すると共に意見交換を行った。

【見学地】

午前 飯山市 野々海川崩壊地見学・検討会

午後 栄 村 中条川土砂災害発生現場見学・検討会（途中雨のため会議室へ移動）

【参加者】 22名参加。うち学生会員3名

講師として長野県北信地域振興局林務課 神原博明課長補佐様にご参加いただいた。

【概 要】

（1）野々海川崩壊地

現地で神原課長補佐様から崩壊発生状況、調査、対策の概要について説明いただいた。崩壊地は面積1.9ha、崩壊土砂量57,490m³と推定、下流の住民に対しては土砂流出シミュレーション結果をもって、既往最大1時間降雨量の場合でも氾濫の危険が低いことをお知らせしたとの説明でした。下流で用水を使用している住民からは降雨のたびに濁水が流れることに対して抑制の要望があり、今後対策を検討していくとのことでした。参加者は崩壊地下部の土砂流出地点まで案内いただき、発生原因や今後の対策等について意見を交わした。

（2）中条川土砂災害発生現場

平成23年（2011年）3月12日3時59分、東日本大震災の翌日、長野県と新潟県境を震源とする震度6強の地震が発生し、多数の土砂災害が発生した。中でも規模が大きかったのが中条川上流での土砂災害だった。

現地では災害関連砂防事業による砂防堰堤の新設に加え、「栄村中条川上流災害対策検討委員会（平成23年4月19日～平成24年3月31日；信州大学名誉教授 北澤秋司委員長）」の提言に基づく対策が進められ、山腹工・谷止工・減勢工等が整備されており、発災から13年が経過した現在も工事が継続している。今回参加した学生会員らの意見は下記のとおり。

- ・地質の違いによって対策も違ってくことを感じた。（現地を十分把握できなければ）正しい対策が検討できているかわからないという不確かさがあることを認識できました。
- ・日頃論文でしか見たことのないような現場を見ることができてよかった。地震と土砂流出について改めて考える機会となりました。
- ・現地に赴くことでしかわからないことがあることを実感しました。このような会を今後も是非開催していただきたい。

4 砂防就職説明会の開催

日時：2024 年 12 月 5 日（水）

会場：新潟大学農学部 C107 講義室およびオンライン

講師：国土交通省 土木研究所 雪崩・地すべり研究センター 榊 直人 様

新潟県 土木部 砂防課 高橋歩斗 様

アジア航測 SABO 課 山口 悠 様

幹事：権田豊教授（新潟大学）

参加：11 名

新潟大学 4 名（M1 2 名，B3 2 名） 対面 4 名

信州大学 5 名（M1 1 名，B3 4 名） Web 5 名

富山県立大学 4 名（B3 4 名） Web 4 名

その他，教員 2 名

【参加者の感想】

- ・ 国、県、民間の説明を同時に聞いたのは初めてであり、それぞれの職種の特徴を知ることができた。
- ・ 国土交通省というと行政官のイメージが強かったが，入省後に研究に携わる機会があることを知り興味を持った。
- ・ TECH-FORCE の話しが興味深かった。
- ・ 転勤について少し前向きに考えるようになった。
- ・ 県の早期採用制度の話を知りチャレンジしてみようと思った。
- ・ 民間を含めて働き方改革が進んでおり，働きやすい環境が整えられつつあることを知り安心した。
- ・ コンサルタント会社では，設計だけでなく調査にも取り組んでいることがわかった。富士山の現場に行ってみたいと思った。
- ・ 何事もやってみないと分からないという言葉が心に響いた。

遠隔地からも参加しやすいように，オンラインを併用して開催した。10 月当初の開催を予定して，参加大学間でスケジュール調整を行ったが，大学の行事等の都合で折り合いがつかず，12 月開催となった。次年度はもう少し早い段階でスケジュール調整を行えると良いと思った。また，公務員試験受験者を見ていると 3 年 4 月頃から準備を始めている。砂防関係の公務員試験の受験者を増やすためには，1，2 年生に砂防をアピールすることが大事だと思う。

5 土砂災害緊急対応の実施に関する事項

令和 6 年 1 月 1 日に発生した令和 6 年能登半島地震による災害対応について、砂防学会本部では、本地震による土石流、崩壊、地すべり、河道閉塞の甚大さ・重大性等を総合的に判断し、広域に影響を及ぼす極めて重大な災害に対応する土砂災害緊急調査 A 委員会を設置し、2 月の先遣調査を踏まえ、4 月以降本格調査実施に着手、順次調査を進めている。

信越支部としては、支部長（堤大三、以下敬称略）が調査団長を、副支部長（古谷元、権田豊）が調査班長を務めているのをはじめ、他 10 名（宮田秀介、福山泰治郎、河合政岐、小野

和行、田中靖政、塚原直幸、桑原宏尚、山本満明）が調査団に参画している。各班が現地調査を行っており、班ごとに成果を取りまとめ、1月16日の調査報告会で報告された。

能登半島では9月21-22日の豪雨によって、多数の崩壊、地すべりが発生、また地震によって形成された河道閉塞の多くが決壊し、土砂流出が下流域に被害を与える複合災害となった。その結果を受けて学会本部では再び土砂災害緊急調査A委員会が設置され、能登半島豪雨災害に対する調査団が結成された。信越支部としては、支部長（堤大三）が引き続き調査団長を務め、副支部長（古谷元、権田豊）も調査団に参画している。11月23、24日に緊急調査が行われ、今後詳細な検討が進められる予定である。

(公社) 砂防学会信越支部

2025(令和7年)年5月1日(木), 令和7年度総会

2024(令和6)年度会計報告(案)

1 収入の部

信越支部では、事業実施に必要な費用については事業ごとに費用の支出を求めており、支部として計上すべき収入はなく、会計上の収入の項を設けていない。

2 支出の部

金額上段():当初予算額

費目	金額(円)	備考
総会経費	(90,000) 108,833	会場費, 資料等印刷費, 郵送費, 事務用品費, アルバイト代, CPD プログラム認定料
砂防・急傾斜管理技術者一次試験運営補助費	(6,000) 5,100	会場費
運営委員会経費	(5,000) 2,450	会場費
現地検討会	(154,000) 140,420	バス等借り上げ, 旅行保険, 郵送費, 事務用品費, 資料印刷費, CPD 認定プログラム認定料
災害調査旅費	(45,000) 0	
計	(300,000) 256,803	

(公社) 砂防学会信越支部
2025(令和7年)年5月1日(木)、令和7年度総会

監査報告

(公社) 砂防学会信越支部の令和6年度事業ならびに会計について会計監査を実施した。
会計監事からの報告は別紙のとおりである。
なお、事業報告に関して下記のとおり意見が付された。

記

砂防急傾斜管理技術者一次試験(長野会場)について、令和6年度試験の受験者が1名であったとの報告であった。

今後、長野会場を希望する潜在的な受験者が極めて少ないことの現れかと思料する。

運営側の負担も鑑み、長野会場の開催を、5年に一回等の数年おきにする、もしくは、長野会場そのものを廃止することを検討すべきではないか。

以上

監事監査報告書

(公社) 砂防学会信越支部

支部長 堤 大三 殿

2025 年 4 月 20 日

(公社) 砂防学会信越支部

監事 小 野 和 行

(公社) 砂防学会信越支部 運営規程 第 3 章第 8 条 (3) に基づき、支部会計および事業実施に関する報告を監査しましたので、以下の通り報告します。

1. 監査方法

運営委員から 2024 (令和 6) 年度に (公社) 砂防学会信越支部で実施した事業の報告を聴取し、さらに根拠書類を確認することにより、監査を実施しました。

2. 監査の結果

(公社) 砂防学会信越支部の会計および事業の実施は適切に行われたものと認めます。

監事監査報告書

(公社) 砂防学会信越支部
支部長 堤 大三 殿

令和 7 年 4 月 17 日

(公社) 砂防学会信越支部

監事 木本 昌一郎

(公社) 砂防学会信越支部 運営規程 第3章第8条(3)に基づき、支部会計および事業実施に関する報告を監査しましたので、以下の通り報告します。

1. 監査方法

運営委員から2024(令和6)年度に(公社)砂防学会信越支部で実施した事業の報告を聴取し、さらに根拠書類を確認することにより、監査を実施しました。

2. 監査の結果

(公社) 砂防学会信越支部の会計および事業の実施は適切に行われたものと認めます。

(公社) 砂防学会信越支部

2025(令和7年)年5月1日(木)、令和7年度総会

2025(令和7)年度事業計画(案)

1 支部総会・講演会の開催

令和7年5月1日(木) 支部総会ならびに講演会を開催する。

2 砂防・急傾斜管理技術者一次試験(長野会場)の運営補助

令和7年3月3日に令和7(2025)年度砂防・急傾斜管理技術者試験の「受験の手引」が公表された。

試験日: 令和7年6月28日(土) 11時開始予定

試験地(予定): 仙台、東京、長野、京都、福岡

信越支部では長野会場の試験実施に係る運営補助を担う。

次世代を担う砂防・急傾斜管理技術者の育成に資することから、支部においても受験者の掘り起こしに努める。

3 現地見学会・検討会

10月～11月ごろの実施を計画する。信越支部管内各県での持ち回り開催等、信越支部独自の活動方法を検討する。

また、必要に応じて砂防講習会の開催を計画する。

4 砂防就職説明会の開催

多くの学生が参加できるように、参加大学と砂防学会事業部会との間で早めに説明会のスケジュールを調整するとともに、オンラインを併用して遠隔地からも参加しやすい方式とし、開催する。2025年度幹事校は信州大学(堤支部長)の予定である。

5 支部運営委員会

令和8年1月頃、開催する。

6 土砂災害緊急対応の実施に関する事項

令和7年度発生 of 災害において、信越支部では災害の緊急度、社会的影響度に鑑み、運営委員会において状況の把握に努めるとともに、砂防学会特別災害対応委員会と緊密に連携して緊急調査、報告書の取りまとめ等、必要な対応をおこなう。

議案 4

(公社) 砂防学会信越支部
2025(令和7年)年5月1日(木)、令和7年度総会

2025(令和7)年度予算(案)

1 収入の部

金額上段(): 前年度予算額

費目	金額(円)	備考
現地見学会・検討会参加費	(0) 30,000	会員、非会員共に請求
計	(0) 30,000	

2 支出の部

金額上段(): 前年度予算額

費目	金額(円)	備考
総会・講演会費	(90,000) 40,000	会場費、資料等印刷費、郵送費, CPD プログラム
砂防・急傾斜管理技術者一次試験 運営補助費	(6,000) 6,000	会場費
現地見学会・検討会	(154,000) 154,000	バス等借り上げ(保険料含む) 講師謝金・旅費
事務経費	(0) 10,000	事務用品費
災害調査経費	(45,000) 20,000	事案ごとに本部との協議のうえ対応
計	(300,000) 230,000	

(公社) 砂防学会信越支部
2025(令和7年)年5月1日(木)、令和7年度総会

役員推薦(案)

2025 年(令和7年)度 役員について

(公社) 砂防学会信越支部運営規程第2章支部役員, 第4条(選任) 2. に基づき
別紙名簿案のとおり推薦する。

	役職	氏名	所属	役職
***	1 支部長	堤 大三	信州大学農学部 農学生命科学科	教授
	2 顧問	平松 晋也	信州大学	特任教授
	3 副支部長	権田 豊	新潟大学農学部 農学科	教授
	4 副支部長	吉村 元吾	長野県建設部 砂防課	参事・砂防課長
	5 副支部長	古谷 元	富山県立大学工学部 環境・社会基盤工学科	教授
	6 監事	小野 和行	日本綜合建設株式会社	技術顧問 安曇野営業所長
	7 監事	林 真一郎	富山県土木部	参事・砂防課長
**	8 運営委員	大西 竜太	国土交通省 中部地方整備局 河川部河川計画課	課長補佐
**	9 運営委員	梅田 ハルミ	国土交通省北陸地方整備局 河川部	建設専門官
	10 運営委員	松本 直樹	国土交通省北陸地方整備局 湯沢砂防事務所	所長
**	11 運営委員	五十川 泰史	国土交通省北陸地方整備局 金沢河川国道事務所	所長
	12 運営委員	湯原 麻子	国土交通省北陸地方整備局 黒部河川事務所	所長
	13 運営委員	石田 孝司	国土交通省北陸地方整備局 立山砂防事務所	所長
	14 運営委員	石尾 浩市	国土交通省北陸地方整備局 松本砂防事務所	所長
	15 運営委員	吉田 桂治	国土交通省中部地方整備局 天竜川上流河川事務所	所長
**	16 運営委員	村松 義昭	農林水産省 林野庁 関東森林管理局 計画保全部 治山課	課長
**	17 運営委員	立沢 和実	農林水産省 林野庁 中部森林管理局 計画保全部 治山課	課長
	18 運営委員	吉柳 岳志	国立研究開発法人 土木研究所 雪崩・地すべり研究センター	センター長
**	19 運営委員	田中 尚人	石川県土木部 砂防課	課長
**	20 運営委員	逢坂 康之	新潟県土木部 砂防課	課長
	21 運営委員	細川 容宏	吉川建設株式会社	施工統括部顧問
	22 運営委員	本白 茂	朝日航洋株式会社 東日本空情支社	理事
	23 運営委員	澤 陽之	アジア航測株式会社 中部国土保全コンサルタント技術部	部長
*	24 運営委員	北原 哲郎	応用地質株式会社 防災・インフラ事業部 金沢営業所駐在	技術長
	25 運営委員	上原 信司	株式会社キタック	常務取締役・販促管理部門副統括
	26 運営委員	神野 忠広	共和コンクリート工業株式会社	常務取締役
	27 運営委員	鈴木 和弘	株式会社興和	取締役技術部長
*	28 運営委員	高島 誠	国土防災技術株式会社 本社営業本部公共営業部	次長
	29 運営委員	藤井 雄次	国土防災技術株式会社 長野支店	支店長
	30 運営委員	山田 泰弘	国土防災技術株式会社 関東支社および東京支店	関東支社技術部長兼 東京支店長
***	31 運営委員	福田 光生	ダイチ株式会社	技術顧問
	32 運営委員	清野 耕史	大日本ダイヤコンサルタント株式会社 技術本部国土保全統括部	砂防担当部長
	33 運営委員	飯沼 達夫	日本工営株式会社 東京支店	理事 支店長代理
***	34 運営委員	河合 政岐	日本工営株式会社 北陸事務所	所長
	35 運営委員	高橋 裕史	一般社団法人 北陸地域づくり協会 長野支所・松本支所	支所長
	36 運営委員	長井 義樹	応用地質株式会社	理事・技師長
	37 運営委員	宮田 秀介	京都大学大学院農学研究科	准教授
	38 運営委員	福山 泰治郎	信州大学農学部 農学生命科学科	助教

（異動等：*所属等変更，**異動にともなう交代，***新規委嘱）

事務局	藤本 済	日本綜合建設（株）	取締役副社長
-----	------	-----------	--------

砂防学会信越支部
2025（令和7）年度役員名簿
（案）

	役職	氏名	所属	役職
1	支部長	堤 大三	信州大学農学部 農学生命科学科	教授
2	顧問	平松 晋也	信州大学	特任教授
3	副支部長	権田 豊	新潟大学農学部 農学科	教授
4	副支部長	森田 耕司	長野県建設部 砂防課	参事・砂防課長
5	副支部長	古谷 元	富山県立大学工学部 環境・社会基盤工学科	教授
6	監事	小野 和行	日本綜合建設株式会社	技術顧問 安曇野営業所長
7	監事	松本 直樹	富山県土木部 砂防課	参事・砂防課長
8	運営委員	大西 竜太	国土交通省 中部地方整備局 河川部河川計画課	課長補佐
9	運営委員	梅田 ハルミ	国土交通省北陸地方整備局 河川部	建設専門官
10	運営委員	鷺尾 洋一	国土交通省北陸地方整備局 湯沢砂防事務所	所長
11	運営委員	五十川 泰史	国土交通省北陸地方整備局 金沢河川国道事務所	所長
12	運営委員	志野 直紀	国土交通省北陸地方整備局 黒部河川事務所	所長
13	運営委員	石田 孝司	国土交通省北陸地方整備局 立山砂防事務所	所長
14	運営委員	林 真一郎	国土交通省北陸地方整備局 松本砂防事務所	所長
15	運営委員	吉田 桂治	国土交通省中部地方整備局 天竜川上流河川事務所	所長
16	運営委員	村松 義昭	農林水産省 林野庁 関東森林管理局 計画保全部治山課	課長
17	運営委員	立沢 和実	農林水産省 林野庁 中部森林管理局 計画保全部治山課	課長
18	運営委員	藤平 大	国立研究開発法人土木研究所雪崩・地すべり研究センター	上席研究員
19	運営委員	橋本 浩一	石川県土木部 砂防課	課長
20	運営委員	逢坂 康之	新潟県土木部 砂防課	課長
21	運営委員	細川 容宏	吉川建設株式会社	施工統括部顧問
22	運営委員	本臼 茂	朝日航洋株式会社 東日本空情支社	理事
23	運営委員	澤 陽之	アジア航測株式会社 経営戦略本部 経営企画部	部長
24	運営委員	北原 哲郎	応用地質株式会社 防災・インフラ事業部金沢営業所駐在	技術長
25	運営委員	上原 信司	株式会社キタック	専務取締役
26	運営委員	神野 忠広	共和コンクリート工業株式会社	常務取締役
27	運営委員	鈴木 和弘	株式会社興和	取締役技術部長
28	運営委員	高島 誠	国土防災技術株式会社 本社事業本部事業管理部	部長
29	運営委員	矢島 光一	国土防災技術株式会社 長野支店	支店長
30	運営委員	山田 泰弘	国土防災技術株式会社 関東支社および東京支店	関東支社技術部長兼 東京支店長
31	運営委員	福田 光生	ダイチ株式会社	技術顧問
32	運営委員	清野 耕史	大日本ダイヤコンサルタント株式会社 技術本部国土保全統括部	砂防担当部長
33	運営委員	飯沼 達夫	日本工営株式会社 東京支店	理事 支店長代理
34	運営委員	河合 政岐	日本工営株式会社 北陸事務所	所長
35	運営委員	高橋 裕史	一般社団法人 北陸地域づくり協会 長野支所・松本支所	支所長
36	運営委員	長井 義樹	応用地質株式会社	理事・技師長
37	運営委員	宮田 秀介	京都大学大学院農学研究科	准教授
38	運営委員	福山 泰治郎	信州大学農学部 農学生命科学科	助教

（異動等：*所属等変更，**異動にともなう交代，***新規委嘱）

事務局	藤本 済	日本綜合建設（株）	取締役副社長
-----	------	-----------	--------